

平成22年度 事業報告書



社団法人 日本キャンプ協会

この平成22年度事業報告書は、平成23年5月21日に行われた平成23年度第1回総会で承認されたものです。

社団法人 日本キャンプ協会 平成22年度事業報告書

－ 目 次 －

平成22年度事業総括	1
1) キャンプの活動を社会に広め、定着していく事業	3
1. Camp Meeting in Japan 2010の開催	
2. 自然体験活動青年ミーティング2010の開催	
3. キャンプの普及活動のための各種キャンペーンの実施	
4. モデル事業の実施	
5. 公共団体、関係団体、企業等の行うキャンプ・野外活動の事業受託および協力	
6. CAMPINGの発行	
7. ホームページ・メールマガジンの配信	
8. 自然体験活動の場の提供と施設の運営	
2) 指導者養成に関する事業	9
1. 指導者養成講習会の実施	
2. 指導者の審査・認定	
3. 指導者養成制度の改善に関する検討	
4. BUCの承認	
3) キャンプの調査・安全に関する事業	12
1. キャンプ研究の発行	
2. 国内外の情報収集・調査	
3. オフィシャルレポーターによる会員モニタリング	
4. 出版事業	
5. ICF/AOCF/ACA等の海外との情報交換ならびに連絡調整	
4) 組織整備に関する事業	13
1. 日本キャンプ協会と都道府県キャンプ協会の組織に関する調整	
2. 各種団体等への協力・共催・後援	
5) 会議の開催	16
CAMPING AWARD 2010 受賞者	17
社団法人日本キャンプ協会平成22・23年度役員	19
社団法人日本キャンプ協会平成22・23年度専門委員	19
都道府県キャンプ協会一覧（平成22年度）	21

平成22年度事業総括

平成22年度の終わりを目前にした平成23年3月11日(金)、津波を伴う大地震の発生により太平洋岸の東北・関東各県は未曾有の被害に見舞われました。国内観測史上最大というマグニチュード9の揺れと、それに伴う大津波の規模は想像を絶するものとなり、被災地の範囲は400kmを超える地域に広がりました。

また、この東日本大震災は福島県の福島第1原子力発電所の倒壊を招き、放射性物質の拡散の恐れによって近隣住民が強制避難を余儀なくされるなどの二次災害をももたらしました。

平成23年4月末日現在でも被害の全貌は明らかになっておらず、死者、行方不明者の数は16年前に発生した阪神淡路大震災の時の4倍を超えるのではないかと見られています。

この震災によって被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。私たちは今後の被災地の復興と被災された方々の再起を願って、キャンプに関わる者として出来る「グリーフ・キャンプ」(悲嘆ケアを含んだキャンプ)実施への取組を始めました。

平成22年度は公益社団法人化への前段階として、事業の構成を法人申請の3事業「キャンプの活動を社会に広め、定着していく事業」「指導者養成に関する事業」「キャンプの調査・安全に関する事業」及び「組織整備に関する事業」に再編成して各事業を遂行してきました。

キャンプの活動を社会に広めていく事業としては「Camp Meeting in Japan 2010」が5月22日(土)に開催され、21名の方が日頃の実践や研究の成果を発表しました。近年のこのような事業や9月に行われた「自然体験活動青年ミーティング2010」等で見せる青年たちの発表やプロジェクト運営に関わる活発な姿には頼もしさを感じることが出来ます。こうした将来の野外活動を担う若い人たちが、必要な経験や知識を積み重ねるための場と機会を提供することも私たちの大きな使命の一つであると言えます。

このほかキャンプアカデミーを3シリーズ行うことが出来ました。しかし、今年は諸般の事由により国立乗鞍青少年交流の家で開催を予定していた全国キャンプ大会を実施できなかったことは残念なことでした。

朝霧野外活動センターは静岡県教育委員会より指定管理者としての再指定を受け、この年度から第2期目(5年間)の運営に入りました。「自然体験活動の場の提供」が出来る拠点として、利用者への一層のサービス向上に加え、これまでに支援して頂いた地域の方々との協働を更に深め、新しいプログラム開発に注力しました。

一方、6月18日(木)、静岡県立三ヶ日青年の家でプログラム実施中に起こったカッター転覆事故は各方面に大きな影響を与えることとなりました。朝霧野外活動センターも事故後に組織された「青少年教育施設等安全対策委員会」の構成員として、また施設の管理者として様々な対応を行い、施設・プログラム運営マニュアル等についての見直しを行いました。



8月2日(月)から8日(日)の日程で、ボーイスカウトの第15回日本ジャンボリーが朝霧高原で開催されました。朝霧野外活動センターは全国各地から集まってくるボーイスカウトの隊員・指導者のための大会本部施設として全面的に協力体制を組み、日本ジャンボリーの運営支援を行いました。

指導者養成に関する事業においては、昨年に引き続き養成数の減少に歯止めがかからず厳しい状況が続いています。特に、キャンプディレクター養成講習会では2級・1級ともに受講希望者が最少催行人員に満たなかった5会場で講習会を中止することになりました。しかし、指導者養成委員会ではこの年度より従来の指導者養成に加え指導者増強の部会を設けて対策を講じ、全体的な養成数の減少傾向の中にありながらキャンプインストラクター養成のための課程認定団体については9団体の増加を見ることが出来ました。

キャンプの調査・安全に関する事業では「キャンプ研究」の発刊、国内外の情報の収集、海外の関係団体との連絡調整、出版等の事業を中心に行ってきましたが、特筆すべきこととして設立45周年事業の一環としての「キャンプ白書」の編纂が挙げられます。日本キャンプ協会設立以来、作成の必要性を感じながらもなかなか着手出来なかった「キャンプ白書」は平成23年9月に発刊を予定しています。

組織整備に関する事業は主として、各都道府県キャンプ協会との連携・協働のシステムを構築し、全国各地で積極的に行われるキャンプの普及活動をサポートすることを主眼としています。この年度は日本キャンプ協会の公益社団法人化を睨んで、各都道府県キャンプ協会との円滑な相互関係の在り方の検討を続けてきました。

そして、都道府県キャンプ協会がそれぞれの地域で活動する際のガイドライン等を示した「都道府県キャンプ協会運営マニュアル」を作成し全国のキャンプ協会に配布しました。

3月11日の東日本大震災のニュースが世界に向けて発信された直後から、ICF(国際キャンプ連盟)、ACA(アメリカキャンプ協会)、AOCF(アジア・オセアニア・キャンプ連盟)等々の団体や関係者から日本キャンプ協会宛てにお見舞いや激励のメール、募金の申し出が続々と寄せられました。

これは世界の人々の今回の地震への関心の高さと、キャンプを愛する仲間たちの国境を越えたコミットメントの気持ちの表れであるように感じられます。

平成22年度は平坦なことより困難なことの方が多かった年度でしたが、キャンプを愛する世界の人々と共に歩いて来られたということを実感する一年であったようにも感じられます。

この一年間の歩みを支えて下さった多くの方々に感謝を申し上げますとともに、これからも、状況の良い時も、良くない時もキャンプの普及振興にお力添えを下さいますようお願い申し上げます。



1) キャンプの活動を社会に広め、定着していく事業

「すべての人々の成長に良い刺激と影響を与える」キャンプを広く社会に向けてアピールすることに重点を置き、人々の豊かで充実した暮らしに資するために、野外活動になじみの薄い市民にも分かりやすい事業を展開した。

1. Camp Meeting in Japan 2010 -第14回日本キャンプ会議- の開催

国内・国外のキャンプの実践報告や研究発表を通じて、キャンプ・野外活動における新しい情報の共有化や指導者相互の交流を促す機会として開催した。

期 日：平成22年5月22日（土）

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都）

参加者：117名 発表者：21名

内 容：キャンプの実践報告および研究発表

[口頭発表] 13題

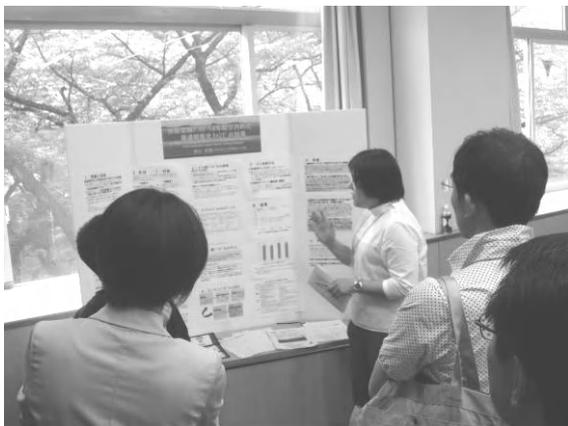
●保育者養成を目的とした組織キャンプの実践とその試み ●ホリスティックな教育キャンプ実践報告
●G.N.C.A. スプリングキャンプ『ドリームキャンプ』報告 ●日米交流サマーキャンプ20年の歩みーその1
●WEA 2010 National Conference on Outdoor Leadership 参加報告 ●地域住民との協働によるフィールドづくりの試みーツリーハウスづくりの取り組みからー ●JALT プログラム内容が参加者の自己概念変容に及ぼす影響 ●キャンパーの志向によるキャンプの効果の表れ方の違いーつながり志向性・自然体験効果・感性の関係からの考察ー ●発達段階に応じたキャンプ効果の比較ーメタ分析を用いてー ●キャンプにおける場の力ーウィルダネス体験に着目してー ●なぜバックカントリースキーを求めるのかーバックカントリースキーへの移行に注目してー ●地域活性化に貢献するキャンププログラムに関する研究ーコンジョイント分析の適用ー ●知的障害高等養護学校における自然体験活動の実態について

[ポスター発表] 8題

●「生きる力」を育む効果的な野外教育プログラムの検討ー「アイガモを食べる」体験プログラムの効果測定ー ●日米交流サマーキャンプ20年の歩みーその2 ●玉川大学教育学部野外教育演習開講の背景と学生の取り組み ●静岡県立朝霧野外活動センター利用団体の教育的効果ー2ヶ年調査結果の分析ー
●ウェビング・テープを使ったチームビルディング「ラクーン・サークル」実践報告および体験 ●ラボキャンプ2009効果測定調査報告 ●体験型親プログラムを取り入れた発達障害児キャンプの効果 ●アメリカキャンプ協会100年の歴史

2. 自然体験活動青年ミーティング2010の開催

自然体験活動における若い指導者の育成は、今後の国内の自然体験活動を充実させる上で重要である。すでに自然体験活動の分野で活動している青年や、これから活動を始めたいと考えている青年たちが集い、野外技術や実践理論を学ぶ機会として開催した。



ポスター発表での質疑応答 (キャンプ ミーティング)



全体会でのシンポジウム (キャンプ ミーティング)

期 日：平成22年9月18日（土）～20日（祝）
会 場：川崎市立黒川野外活動センター（神奈川県）
主 催：(社)日本キャンプ協会（自然体験活動青年ミーティング実行委員会を公募で組織し、企画・運営にあたった）
協 力：日本アウトドアネットワーク
参加者：実行委員5名、運営スタッフ5名、参加者53名
内 容：ワークショップ「キャンプソングをロケさもう」「命をいただく」「キャンプの安全」「ドラム缶で本格ピザづくり」「ゼロからつくる流しそうめん」「アウトドアで本格スイーツ」「コミュニケーションを進めるゲーム」「キャンプと火-かまど編・キャンプファイア一編」
テーマトーク「生きていく上で大切にしたいことは」「キャンプで食べていくには」「自分の魅力って何だろう」「なぜ自然体験に関わったの?」「これからやりたいことは」
ふりかえり「未来新聞づくり」

3. キャンプの普及活動のための各種キャンペーンの実施

安全を中心に、一般に周知するためのキャンペーンを関係諸団体等と協働で行い、幅の広い運動にすることで一層の効果をねらう。

- セーフティアウトドア月間（キャンプ安全の日）のキャンペーン（7月～8月）の実施
自然体験活動を行う団体と協働して、セーフティアウトドアキャンペーンを開催した。
シンポジウムの開催 7月16日（金） 日本青年館（東京都）
協賛事業 ファミリーキャンプ 7月18日（日）～19日（祝） 朝霧野外活動センター（静岡県）
- 「キャンプ安全の知恵」の募集と選定（4月～7月）
応募数：一般の部 849通、少年少女の部 115通
＜一般の部＞
最優秀作品「ふざけると 火と包丁が 牙をむく」 秋田陽子さん（愛知県）
優秀作品「あっ危ない 焚き火のそばの カセットコンロ ガスボンベ」 伊藤久美子さん（静岡県）
＜少年少女の部＞
最優秀作品「やけどから 君を守るよ 長ズボン」 あきたゆうきさん（愛知県）
優秀作品「走らない！ぶつかる、転ぶ、やけどする」 埜辺 綾香さん（大阪府）

全国キャンプ大会

例年秋に実施してきた全国キャンプ大会は第20回大会として国立乗鞍青少年交流の家（岐阜県）で実施する予定であったが、主管の岐阜県キャンプ協会より諸般の事由による主管辞退の申し出があり、その後の会場の手配等が困難であったため大会そのものの実施を中止した。



青年ミーティングに参加した青年たち



「命をいただく」の1コマ（青年ミーティング）

4. モデル事業の実施

キャンプの良さを社会の中に広げていくためには、多くの人々がキャンプの具体的なプログラムを体験することが有効である。キャンプのプログラムや指導者が学ぶべき事柄は、社会の移り変わりに連れて変化するものであるが、今の社会に求められている取り組みをモデル的に展開し、その内容と運営の方法を各地に広げていくための種まきの事業としてモデル事業を実施した。

● キャンプアカデミーの実施

組織キャンプの考え方をベースに、「キャンプに関連する新しい社会事象・取り組みを学ぶ」「キャンプによる社会貢献を考える」ことを意識した内容とする。また、キャンプ指導者の学びの機会としてだけでなく、教育関係者や医療・福祉関係者など異業種の人々にもキャンプがいろいろなことに活かせる手段であることを知ってもらうきっかけとして開催した。

①ICFFJ・NCAJ 合同ワークショップ「ラクーン・サークルのアクティビティ」

日 程：6月12日（土） 会 場：上智大学（東京都）

内 容：第9回国際キャンプ会議・第4回アジア・オセアニア・キャンプ会議（2011年）の説明
ラクーン・サークルの体験

参加者：11名

②ICFFJ・NCAJ 合同ワークショップ「ラリー・スウェンソンの世界」

日 程：12月11日（土） 会 場：国立青少年センター（東京都）

内 容：コミュニケーションスキルのワークショップ

参加者：43名

③キャンプアカデミー「印象講座」

日 程：3月4日（金）、18日（金）2回構成 *地震の影響により第2回（3月18日）は中止とした

内 容：黒沢としみ氏（印象分析士）による「他人から見られている自分」に気づくワークショップ

参加者：52名

5. 公共団体、関係団体、企業等の行うキャンプ・野外活動の事業受託および協力

日本キャンプ協会の社会に向けた窓口として、各種キャンプ、指導者、キャンプ場の紹介、用具、図書、情報等についての相談に応じる。また、キャンプの企画、運営受託や各種キャンプ関連事業に対する講演や講師派遣などの協力を行った。キャンプの普及を図るとともに、新しい社会的課題にふれキャンプの新たな社会貢献の可能性の拡大や、指導者資格を有する会員の活躍の場が広がることを期待して実施した。

● キャンプインフォメーションセンター

キャンプに関する相談およびマスコミへの対応を行った。

電話や電子メールによる相談に対応するほか、都道府県キャンプ協会を通じた指導者派遣、新聞・ラジオ・テレビ局等のマスコミの取材対応を行った。（年間相談受付件数43件）



ICFFJ・NCAJ 合同ワークショップ



キャンプアカデミー「印象講座」

● アウトドアセーフティハンドブック

高島株式会社の協賛により、小冊子を作成し全国の小学校等で配布をし、キャンプをはじめとする自然体験活動の普及、野外における安全意識の向上を図った。

● サンフレッチェ広島スプリングキャンプ

期 日：4月1日(木)～3日(土)

会 場：広島市立似島臨海少年自然の家(広島県)

内 容：グループ遠征・キャンプファイアー・野外料理ほか

参加者：サンフレッチェ広島ジュニアチーム・スクール生38名、コーチ13名

協 力：広島県キャンプ協会

● JリーグU-12 フェスティバルへの協力

会 場	期 日	参加チーム	協 力 協 会
きじま平	8月 3日(火)～ 6日(金)	28チーム	長野県キャンプ協会
仙 台	8月10日(火)～12日(木)	5チーム	宮城県キャンプ協会
鹿 島	8月21日(土)～24日(火)	16チーム	茨城県キャンプ協会
愛 媛	8月24日(火)～26日(木)	12チーム	愛媛県キャンプ協会
岐 阜	8月25日(水)～27日(金)	4チーム	岐阜県キャンプ協会

内 容：きじま平会場では、ASEやキャンプファイアーなどのプログラムの提供

仙台・愛媛・鹿島・岐阜会場では、上記の他、生活のケアも含めたプログラムを提供

● JOC(日本オリンピック委員会)への協力

ナショナルトレーニングセンター(東京都)で寄宿生活を送るエリートアカデミーに参加する子どもたち(中学校1年生から高校2年生)への体験活動プログラムなどを提供した。

● 体験の風をおこそう運動「秋のキッズフェスタ」への協力

国立青少年振興機構が中心となり青少年団体に呼びかけて実施しているキャンペーン「体験の風をおこそう運動」に協力。国立青少年センターを会場に行った「秋のキッズフェスタ」に参加し、体験活動のブースを出展した。

6. CAMPINGの発行

キャンプに関する最新の情報やさまざまなキャンプ現場で役立つ情報を掲載した会報誌「CAMPING」を隔月で発行した。まだ経験の少ない指導者にも役立つよう、分かりやすい紙面作りを行った。

【年6回発行(各20,000部)】

通算No.	発行月	特 集	通算No.	発行月	特 集
第134号	4月/5月	見極め	第137号	10月/11月	おやすみ
第135号	6月/7月	キャンプと水	第138号	12月/1月	だから・キャンプ
第136号	8月/9月	キャンパーズ・ファースト	第139号	2月/3月	キャンプでボランティア



JOCへの協力プログラム



発行された「CAMPING」

7. ホームページ・メールマガジンの配信

インターネットを活用した各種情報の提供に努めた。

● ホームページを通じた情報発信

日本キャンプ協会や各都道府県協会、関連団体の実施する事業の告知など、さまざまな情報を提供した。

また、この年度はホームページのリニューアルを行い、課程認定団体を含む会員向け情報の充実、住所変更などの各種手続きをホームページ上で行えるようにするなど、利便性の向上を図った。【年間ページビュー：約120万回（サーバーの切り替えを行ったため正確な数の把握不能）】また、各都道府県キャンプ協会がホームページを開設するためのサーバーの提供も行い、各都道府県キャンプ協会の情報発信の支援を行った。

● メールマガジンの発行

BUC 事業を中心に、キャンプに関連する学習機会を増やすことに役立つ情報の提供を行った。

発行回数：年17回（年末年始を除く3週毎の金曜日に発行）

送信数：約750名（発行時により変動・別途PDF版もホームページで公開）

8. 自然体験活動の場の提供と施設の運営（静岡県立朝霧野外活動センター）

静岡県立朝霧野外活動センターの指定管理者として第2期目を迎え、多くの人々の自然体験活動を支援するとともに、周辺地域との協働によって新しい活動領域の開拓を行った。また、8月にはボーイスカウト日本連盟の主催する第15回日本ジャンボリーの大会本部施設として、ボーイスカウト日本連盟、静岡県、富士宮市、静岡県教育委員会等と協力体制を組み、全国のスカウトを受け入れた。

青少年自然体験事業

事業名	日程	対象	参加者数
朝霧高原サマーキャンプ ～つながろう富士山～	7月4日(日)	小学校5年生～中学校3年生	42名
	8月6日(金)～13日(金)		41名

野外教育指導者養成事業

事業名	日程	対象	参加者数
宿泊利用団体 担当者研修会	4月16日(金)	宿泊利用団体の担当者	163名
	9月12日(日)		59名
野外活動プログラム実習	4月17日(土)～18日(日)	利用団体の担当者・指導者	47名
長期キャンプ指導者 養成講習会	6月19日(土)～20日(日)	専門高校生 短大生 大学生	14名
	7月3日(土)～4日(日)		
	8月6日(金)～13日(金)		
野外教育指導者 養成講習会	2月11日(金)～13日(日)	野外教育に興味のある人、青少年団体の指導者、教育関係者	18名
	3月4日(金)～6日(日)		11名



リニューアルされたホームページ



朝霧高原で開催された第15回日本ジャンボリー

県民自然体験事業

事業名	日程	対象	参加者数
ちょっといい春感じませんか	4月24日(土)～25日(日)	家族・小グループ	113名
ファミリーキャンプ	7月18日(日)～19日(月)	家族・小グループ	50名
朝霧高原 トレイルランニングレース	5月1日(土) ----- 9月4日(土)～5日(日)	家族・小グループ	650名
ステキな秋をあなたに	10月2日(土)～3日(日)	家族・小グループ	121名
オリエンテーリング in 朝霧	11月27日(土)～28日(日)	家族・小グループ	307名
スケートキャンプ	12月10日(金)～11日(土)	家族・小グループ	53名
	----- 1月14日(金)～15日(土)		55名
	----- 2月18日(金)～19日(土)		56名

* 3月11日～12日のスケートキャンプは東日本大震災のため中止

施設開放事業

事業名	日程	対象	参加者数
プラネタリウム一般開放	原則毎月第3日曜日	家族・小グループ	2,178名
スケート一般開放	11月～3月の原則日曜日	家族・小グループ	1,863名
朝霧カーニバル	11月7日(日)	どなたでも	6,611名

社会問題に対応した事業

事業名	日程	対象	参加者数
ホッとキャンプ	3月8日(火)～11日(金)	不登校児童・生徒・引きこもりがちな青年	14名

〈本館棟利用者数〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
20年度	3,663	6,631	4,196	5,663	5,508	2,963	3,943	5,215	2,374	1,837	2,562	3,646	48,201
21年度	4,009	5,728	3,466	6,193	5,030	3,414	3,654	8,196	2,328	2,229	2,331	3,773	50,351
22年度	3,308	5,156	4,825	5,807	6,326	4,665	4,522	8,004	2,134	2,256	2,374	569	49,946

〈キャンプ場利用者数〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
20年度	87	4,180	2,743	3,501	3,311	1,777	941	188	396	116	119	381	17,740
21年度	157	3,428	1,527	2,247	4,314	2,682	1,083	968	409	352	298	726	18,191
22年度	124	2,998	1,880	2,298	5,270	3,013	1,202	1,214	355	673	179	76	19,282



週末に行われるスケートキャンプ



ステキな秋をあなたに

2) 指導者養成に関する事業

キャンプが様々な人々の間に普及し、「Camping for All」の運動が効果的に展開されるためには、トレーニングを受けた指導者による支援は欠かせない。

キャンプインストラクターからディレクター1級までさまざまなレベルの指導者養成を実施するとともに、テキストの見直しを行った。また、カリキュラムや制度の見直しに取り組んでいる。

1. 指導者養成講習会の開催

① キャンプインストラクター養成（課程認定団体にて）

課程認定団体（大学・短大・専門学校等による養成 2,739名 都道府県協会による養成 682名）4,500名の養成目標に対し、3,421名の養成結果であった。（達成率76%）
昨年に対し、18%の減であった。（昨年は4,158名）

② キャンプディレクター2級（プログラムディレクター）養成講習会（全国5会場で開催予定 1会場中止）

会場	日程	受講者	場所
北海道	10月1日(金)～10月3日(日)	17名	札幌市滝野自然学園
広島	10月22日(金)～10月24日(日)	12名	もみのき森林公園
大阪	10月29日(金)～11月1日(日)	9名	大阪府立総合青少年野外活動センター
静岡	11月21日(日)～11月23日(祝)	中止	静岡県立朝霧野外活動センター
千葉	平成23年1月8日(土)～10日(祝)	12名	千葉市少年自然の家

なお、小学校の自然体験活動を支援する指導者養成も同時に行い、オブザーバー参加を受け入れた。
（受講者は4会場で13名だった）

③ キャンプディレクター2級（マネジメントディレクター）養成講習会（全国5会場で開催予定 1会場中止）

会場	日程	受講者	場所
東京	6月26日(土)～6月27日(日)	中止	国立青少年センター
広島	10月23日(土)～10月24日(日)	6名	もみのき森林公園
大阪	10月30日(土)～11月1日(日)	7名	大阪府立総合青少年野外活動センター
栃木	12月11日(土)～12月12日(日)	9名	栃木県青年会館コンセール
愛知	平成23年2月5日(土)～6日(祝)	10名	名城大学名駅サテライト

④ キャンプディレクター1級養成講習会（全国2会場で開催予定 2会場とも中止）

会場	日程	受講者	場所
西日本	10月30日(土)～11月3日(水)	中止	大阪府立総合青少年野外活動センター
東日本	11月19日(金)～11月23日(祝)	中止	静岡県立朝霧野外活動センター

⑤ キャンプディレクター1級検定会（全国2会場で開催予定 1会場中止）

会場	日程	受検者	場所
東日本	平成23年1月15日(土)～16日(日)	2名	国立青少年センター
西日本	平成23年1月29日(土)～30日(日)	中止	大阪府立羽衣青少年センター



北海道で行われたPD2級養成講習会



改訂されたキャンプディレクター養成テキスト

2. 指導者の審査・認定

① 資格申請者の審査・認定

認定日	キャンプインストラクター		キャンプディレクター2級		キャンプディレクター1級	
	受験者	合格者	申請者	合格者	申請者	合格者
平成22年 6月10日			12	12	8	8
10月 6日			1	1	2	2
12月 4日			36	36		
平成23年 3月 3日			22	22	2	2
課程認定団体による養成分	3, 421	3, 421				
合計	3, 421	3, 421	71	71	12	12

② 指導者資格の更新 更新者数

資格名	キャンプインストラクター	キャンプディレクター2級	キャンプディレクター1級
更新者数	5, 865	2, 095	1, 064

③ 課程認定団体の審査・認定

課程認定審査会を実施し、新規の課程認定団体の審査を行った。

審査会日程	団 体 名
6月30日	A団体 宮崎県キャンプ協会 B団体 大原医療秘書福祉専門学校（東京都） 大原医療秘書福祉専門学校大宮校（埼玉県） 大原医療秘書福祉専門学校横浜校（神奈川県） 大原簿記情報ビジネス専門学校横浜校（神奈川県）
12月5日	B団体 環太平洋大学（岡山県） 常葉学園短期大学保育科（静岡県） 東北文化学園専門学校（宮城県） C団体 大阪YMC A ウエルネス事業本部（大阪府）

平成22年度課程認定団体数

A団体	B団体	C団体
46	120	8

④ 課程認定団体の連絡調整

課程認定団体（B団体）の養成担当講師を対象に研修会を実施し、キャンプインストラクター養成事例の紹介、事務連絡、アンケート結果の発表等を行った。

開催日	場 所	参加校	参加者
5月22日（土）	国立オリンピック記念青少年総合センター	31校	38名

⑤ 認定証、資格章（バッジ）等の作成

指導者の認定に伴い、認定証、資格章（バッジ）、登録用紙を作成した。



グループでの実習(PD2)



さて、何がはじまるかな(PD2)

3. 指導者養成制度の改善に関する検討

①講習会の内容に関する検討

ディレクター講習における内容の見直しを行った。見直しの結果については 23 年度の養成講習会から反映される。

②キャンプディレクター2級マネジメントディレクター養成の課程認定団体での試行

キャンプディレクター2級マネジメントディレクターを課程認定団体（B団体のみ）で実施できるよう、平成23年度より2年間の期限付きで試行することにした。

公募の結果、13校が試行に参加することになった。

※キャンプディレクター2級（マネジメントディレクター）養成課程認定団体（13校）

北翔大学（北海道）、仙台大学体育学部（宮城県）、千葉大学教育学部（千葉県）、日本大学文理学部（東京都）、田園調布学園大学（神奈川県）、国際自然環境アウトドア専門学校（新潟県）、愛知教育大学（愛知県）、桃山学院大学（大阪府）、関西学院大学（兵庫県）、福山YMC A国際ビジネス専門学校（広島県）、九州共立大学（福岡県）、福岡大学スポーツ科学部（福岡県）、熊本YMC A学院（熊本県）

③「キャンプディレクター必携」改訂版の発行

キャンプディレクター養成に使用する「キャンプディレクター必携」の内容を見直し、7月に改訂版を発行した。

4. BUCの承認

指導者資格を生きたものとして維持するためには絶え間ない研修（Brush-Up）が不可欠であり、キャンプ技能の再確認、新しい技術・指導法や情報の導入のための「学びの機会」として、またキャンプ指導者間同士の仲間意識の向上と人間関係の増強をはかる「Communicationの場」として、多くのBUC事業を各都道府県協会とともに実施した。条件の満たす各都道府県協会の事業にはBUC事業の認定を行うとともに、必要に応じてBUC事業実施のための支援を行った。

年 度	BUC開催数	参加登録者数	開催協会数（県+本部）
20	123回	1,534人	39+1
21	123回	1,397人	41+1
22	119回	1,537人	40+1



秋田県協会のスノウキャンプ



滋賀県協会の避難所体験キャンプ

3) キャンプの調査・安全に関する事業

人々がキャンプ・野外活動を通して行う社会貢献の質の向上や幅の拡大のためには、安全で質のよい情報を提供することが必要である。また、多くの人が行っているキャンプ・野外活動の実践や研究の成果を発表することによって新しい試みが広がり、それを有効に活用することができるようにするため、以下の事業を行った。また、会員がより活発な情報発信を行えるよう、「キャンプ研究」のリニューアルに向けた検討を始めた。

1. キャンプ研究の発行

国内外のキャンプ実践者や研究者の成果発表の場として、本年度も継続して研究誌「キャンプ研究」を発刊した。

■第14巻第1号<Camp Meeting in Japan 2010—第14回日本キャンプ会議特集号>

発行日：5月22日（土） 発行部数：4,000部

※内容はCamp Meeting in Japan 2010(3頁)を参照。

■第14巻第2号

発行日：1月31日（月） 発行部数：1,500部

- [実践報告] ●「ドリームキャンプ」実践報告 ●水辺活動における指導者の「ヒヤリ・ハッと」調査～その後を生かせる対応策とは～ ●公園での野外教育実践～プレーパーク活動を通して～ ●大学と地域の連携による年間を通じた野外教育プログラムの展開
- [研究資料] ●自然体験活動における子どもたちが求める理想の指導者 ●キャンプ場の施設評価に関する研究～山梨県の市営キャンプ場を例として～
- [原著論文] ●野外活動施設利用者の満足度と再利用意図に関する研究 ●専門学校生対象のチームビルディングを目的としたキャンプ実習の効果 ●キャンププログラムにおける火の使用体験と火への認識・自己成長性との関連に関する研究

2. 国内外の情報収集・調査

「キャンプ白書」

協会設立45周年を記念して刊行する「キャンプ白書」の発刊に向けて、骨子案、盛り込むべき内容の検討ならびにデータ収集を行った。

3. オフィシャルレポーターによる会員モニタリング

「CAMPING」の内容を中心に年5回のモニタリングを行い、誌上で結果を紹介した。(166名)

4. 出版事業

①「キャンプディレクター必携」の改訂

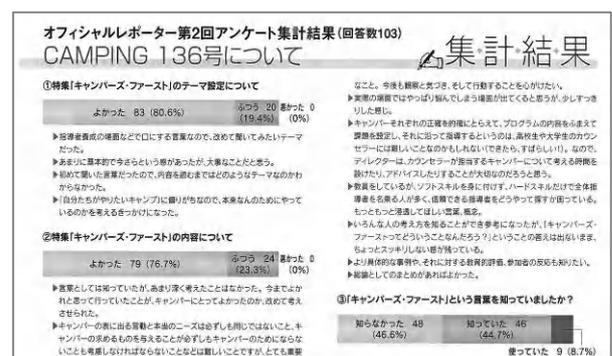
キャンプディレクター養成講習会に使用する「キャンプディレクター必携」改訂版を発行した。

②ISBNコードの付記

日本図書コード管理センターへ申請した出版物のISBNコード管理を行った。



キャンプ研究第14巻1/2



オフィシャルレポーターによるモニタリング集計 (CAMPING 137)

5. ICF/AOCF/ACA等の海外との情報交換ならびに連絡調整

世界中のキャンプ関係者の交流の場となる国際会議の準備やキャンプの新しいアイデアに結びつくような国外の事例等の情報の収集に努めた。

また、3月11日の東北地方太平洋沖地震発生後は、ICF等を通じて災害時におけるキャンプでの取り組みに関する情報の収集を行った。

①アメリカキャンプ協会全国大会参加

米国カリフォルニア州サンディエゴで行われたアメリカキャンプ協会の全国大会に事務局スタッフ1名が参加した。2011年11月に香港で行われる国際キャンプ連盟ならびにアジア・オセアニア・キャンプ会議に関する打ち合わせを行ったほか、アメリカキャンプ協会やオーストラリアキャンプ協会等との相互の情報提供に関する協議を行った。

日程：2月8日（火）～11日（金）

会場：ヒルトン・サンディエゴ・ベイフロント（カリフォルニア州）

②アジア・オセアニア・キャンプ連盟事務局の運営

アジア・オセアニア・キャンプ連盟の事務局としてホームページを通じた情報提供や、次期アジア・オセアニア・キャンプ会議（2011年11月・香港）の準備作業を行った。

4) 組織整備に関する事業

1. 日本キャンプ協会と都道府県キャンプ協会の組織に関する調整

この年度は日本キャンプ協会の公益社団法人化を視野に入れ本部・支部の関係調整のための検討を行った。

各都道府県協会が多様な社会のニーズを受け止め、地域の中でよい社会貢献を果たすためにどのような形で日本キャンプ協会との連携関係を持つのが良いのかを検討し、「都道府県キャンプ協会加盟（設置）基準（案）」及び「業務提携書（案）」の作成をした。この基準及び提携書は次年度以降、都道府県キャンプ協会との協議を行った上で順次取り交わすこととなる。

①「都道府県キャンプ協会運営マニュアル2010年度版」を作成し、各協会に配布、全国事務局担当者で共通理解をはかった。

内容：1. 日本キャンプ協会がめざすもの 2. キャンプ協会のしくみ 3. 都道府県協会の役割 4. キャンプ協会の年間スケジュール等 5. 会員の意志を反映する組織づくり 6. 予算・決算と日常の会計処理について 7. 事業を企画する 8. 協会の活動を発信する 9. 日本キャンプ協会が行う都道府県協会への支援 10. 日本キャンプ協会が用意している保険 11. 個人情報保護に関する規程

②キャンプ場の認定

「優良キャンプ場」「認定キャンプ場」の認定制度の周知を図るため、ホームページ上に記載し、登録されているキャンプ場の紹介を行った。また、本年度はそらぷちキッズキャンプ（北海道）を優良キャンプ場に認定した。



サンディエゴで行われた AOCF ミーティング



協会運営マニュアル 2010

東日本大震災への海外からのお見舞いと支援

3月11日(金)の地震発生以降、世界中のキャンプ関係者からたくさんのお見舞いのメッセージと支援の申し出が届きました。ここにその一部を紹介します。

日本の大きな自然災害のニュースに心を痛めています。世界のキャンプ・コミュニティの一人ひとりが日本の友人、そしてその家族に向けて、支援のメッセージをお送りします。

国際キャンプ連盟 会長 Valery Kostin

今、日本の地震と津波の大きな被害の前になすすべもありませんが、私の心と祈りはみなさんとともにあります。

復興の過程では、子どもたちの悲嘆ケアと再生が重要なテーマになるでしょう。建物や道路はやがて修復されます。心と希望も同じように修復されなければなりません。それは目に見えません。アメリカキャンプ協会は、日本キャンプ協会の取り組みに最大限の支援を行います。

アメリカキャンプ協会 CEO Peg Smith

今回の地震と津波の被害に心を痛めています。しかし、私の日本で過ごした短い経験からも、日本の人々は手を携え、この災害から立ち上がり、力強く復興するだろうと確信します。

もちろん、この先にさまざまな困難があることも理解しています。ですから、みなさんにはぜひオーストラリアにもみなさんの力になりたいと願う、キャンプ・コミュニティに属する友人がたくさんいることを忘れないでください。

オーストラリアキャンプ協会 CEO David Petherick

この度の大震災、心よりお見舞い申し上げます。あまりにも大きな被害に言葉を失い、啞然としています。少しでもお役に立ちたいが、台湾からできることは多くなく、もどかしい思いでいっぱいです。

今はペンに託してお見舞い申し上げます。どうか体にお気をつけて、くじけることなくがんばってください。

台湾 陳盛雄

このほかにも、カナダ、ロシア、モンゴル、メキシコ、ベネズエラなどから多くのメッセージをいただいています。

また、国際キャンプ連盟では運営委員会では日本キャンプ協会の実施する復興支援事業のための緊急ファンドの設立と協力に関する決議を行い、4月2日に会員に向けてメール、ホームページ、ニュースレターを通じた

呼びかけを行いました。(画像はニュースレターの記事)

これにより、複数のグリーフ・キャンプ(悲嘆ケアを含むキャンプ)の先行事例の情報が寄せられているほか、US\$30,000に及ぶ資金が寄付されています。



国際キャンプ連盟

<http://www.campingfellowship.org/>

③キャンプ用品・用具の配備

安全で楽しいキャンプを普及するために、(財)日本宝くじ協会より助成を受け、全国の都道府県キャンプ協会に各種講習会、指導者研修、キャンプ、全国大会等に利用出来るテントの配布を行った。

2. 各種団体等への協力・共催・後援

キャンプ野外活動の普及・振興に関する事業の後援等を以下のように行った。

【共催・後援・協力】

団 体 名	期 間	事 業 名	
(NPO)森林楽校・森んこ	6/12-13	森んこ野遊びプロジェクト キャンプ指導者養成講座	後 援
(NPO)環太平洋学生キャンプ	7/31-8/15	第 26 回環太平洋学生キャンプ	後 援
福島県キャンプ協会	8/20-22	平成 22 年度キャンプインストラクター養成講習会	後 援
(NPO)キャンピズ	8/25-28	学研サマーキャンプ	共 催
(財)日本サイクリング協会	9/4-5	2010 Mt Fuji エコサイクリング	後 援
秋田県キャンプ協会	9/4-5 9/18-19	キャンプインストラクター養成講座	後 援
岩手県キャンプ協会	9/18-20	第 37 回キャンプインストラクター養成講座	共 催
(社福)朝日新聞厚生文化事業団	9/18-20	児童養護施設高校生「ピア・キャンプ」	後 援
(財)日本サイクリング協会	9/19	2010 東京シティーサイクリング	後 援
(NPO)東京都キャンプ協会	9/25-26	東京キャンプフェスティバル 2010	後 援
大阪府キャンプ協会	10/2-3	平成 22 年度 野外活動促進セミナー	後 援
宮崎県キャンプ協会	10/9-11	キャンプインストラクター養成講座	後 援
(財)日本レクリエーション協会	11/6-8	第 64 回 全国レクリエーション大会	協 力
ICF Friends in Japan	11/26	キャンプを知ろう! 米国フロストバレーキャンプ報告会	後 援
秋田県キャンプ協会	2/11-12	スノウキャンプ	後 援
栃木県キャンプ協会	2/11-13	野外活動指導者養成セミナー	後 援
鹿児島県総合体育センター	3/5-6	平成 22 年度 アウトドア活動セミナー	後 援



(財)宝くじ協会から贈呈されたテント



(財)宝くじ協会から贈呈されたオリジナル六角テント

5) 会議の開催

会 議 名	回数	開 催 日
総 会	1	5月22日
理 事 会	2	5月22日 3月5日
常 務 会	8	4月10日 4月20日 7月20日 10月18日 12月13日 2月8日 2月21日 3月14日
運 営 会 議	2	12月13日 2月21日
会 計 監 査	1	5月18日
全国事務局担当者会	1	5月23日
都道府県協会 ブロック会議	6	5月23日 全ブロック 6月26日～27日 関東ブロック 埼玉県秩父郡長瀨町 7月18日 近畿ブロック 奈良県奈良市 9月26日 北海道・東北ブロック 青森県青森市 11月27日 中部・北陸ブロック 愛知県名古屋市 2月26日 九州・沖縄ブロック 熊本県熊本市
専 門 委 員 会		
総務委員会(常務会)	8	4月10日 4月20日 7月20日 10月18日 12月13日 2月8日 2月21日 3月14日
全体専門委員会	1	5月23日
普及・CAMPING編集	6	4月19日 6月7日 7月5日 10月4日 12月4日～5日(朝霧) 2月28日
普及・アカデミー	5	7月1日 9月8日 10月27日 12月9日 2月2日
普及・Camp Meeting	2	4月23日 5月22日
指導者養成・養成	4	6月10日 10月6日 12月4日～5日(朝霧) 3月3日
指導者養成・増強	3	6月30日 8月11日 12月4日～5日(朝霧)
調査安全委員会	4	7月9日 9月28日 11月16日 3月11日
組織整備委員会	2	8月28日(京都YMCA) 12月18日(京都YMCA)
特別 委 員 会	朝霧2011	6 6月7日 9月23日(朝霧) 10月 4日(山手YMCA) 11月15日 12月20日 1月13日
	キャンプ白書	3 7月8日 10月14日 1月27日
	中期総合計画	4 9月13日 11月19日 1月10日 2月13日
そ の 他 の 会 議		
受託事業	2	6月30日(Jリーグディレクター会議) 1月12日(JOC打合せ)
創立周年式典	3	9月25日(青森県) 3月5日(高知県) 3月13日(広島県)
事務局会議		毎週水曜日 随時
朝 霧 野 外 活 動 セ ン タ ー	所長会	11 4月8日 4月30日 6月10日 6月30日 9月9日 10月22日 11月16日 12月14日 1月27日 2月17日 3月8日
	県庁合同会議	1 4月16日(静岡県庁)
	全国青少年施設協議会	1 5月25日(国立青少年総合センター)
	全青少施協理事会・総会	1 11月24日～26日(国立能登青少年交流の家)
	安全対策委員会	6 6月28日 7月5日 9月15日(静岡県庁) 6月30日 7月16日(三ヶ日青年の家) 3月31日(焼津青少年の家)
	外部評価委員会	2 11月22日 3月28日(静岡県庁)
	静青協合同職員研修会	1 1月27日～28日(沼津市立少年自然の家)
	地域懇談会	1 11月7日(朝霧野外活動センター)

*会場の表記がないものは国立青少年総合センター(東京)で実施

CAMPING AWARD 2010 受賞者

岩見 豊一（いわみ とよかず）氏

【福島県キャンプ協会】

福島県初の「少年自然の家」専門職員として能力を発揮され、文部省委嘱事業の「集団宿泊指導試案」作成にも参画された。県内の学校および社会教育団体のための野外活動プログラムの開発や実技指導に力を注がれ、青少年野外教育施設や地域の教育委員会、公民館等における助言・指導も数多く行ってこられた。

定年退職後は福島県キャンプ協会の理事として、会報づくりや県内のキャンプ指導者養成、「福島県もりの案内人養成講座」の指導、「福島県スポーツフェスタ」（キャンプ部門）や全国キャンプ大会などにおいて幅広い力を示された。また、実技指導においては、経験を生かした魅力ある懇切丁寧な方法に定評があり、思慮深く誠実な人柄は多くの人々から厚い信頼を得ている。

藤沼 真由美（ふじぬま まゆみ）氏

【群馬県キャンプ協会】

1984年、日本キャンプ協会に入会し、初級指導者資格を取得。ボーイスカウトの地域指導者として活動する一方、2001年から群馬県キャンプ協会に所属し、キャンプディレクター1級を取得された。群馬県キャンプ協会では、キッズプログラム委員会の委員長として、現在のキッズ&ジュニアプログラム委員会の基礎作りに尽力するとともに、多くの若手指導者を育成してこられた。「体験こそが人を育てる」をモットーに、副理事長として、常に広い視野をもちながら、理論と実践の両面から協会の発展に寄与されるとともに、キッズ&ジュニアプログラム委員会担当として、細かな部分に目を配りつつ指導者育成に尽力しておられる。

三代川 誠治（みよかわ せいじ）氏

【(NPO)千葉県キャンプ協会】

子供会の指導者として長い指導歴があり、千葉県キャンプ協会の設立当初から指導者として、草創期の活動を支えてこられた。また、千葉県キャンプ協会のNPO法人化に際しては、協会の事務局長として複雑な事務処理を引き受け、円滑な移行を実現された。現在も指導者養成や他団体に対する協会の窓口としての重責を担っておられる。加えて、千葉県キャンプ協会が目指している指導者会員を核とした、市キャンプ協会への支援や県内の会員が運営するキャンプ場を拠点としたプログラム展開、教育機関と連携したキャンプインストラクターの養成やイベントの開催、活動に関する相談や支援など、今後の課題に対しても積極的に取り組んでおられる。

高林 千尋（たかばやし ちひろ）氏

【(NPO)東京都キャンプ協会】

東京都キャンプ協会理事として永年にわたり研修部に所属し、指導者資格制度の移行期には日本キャンプ協会と連携し基盤整備と普及に努められた。また、事務局のスタッフがめまぐるしく変わる中、会計担当理事として協会の財務をしっかりと把握され、円滑な協会運営に注力される姿は他の範となっている。

東京都キャンプ協会のNPO法人設立に向けては、行政当局との折衝を繰り返し2009年6月に無事認可を受ける事が出来たが、法人設立の最大の功労者であり立役者である。日常は「教育レクリエーション研究会」の主宰として、年間を通じて小学生から高校生までを対象に野外活動の実践を行っておられ、その真面目でまっすぐな性格は「都キャンの良心」と呼ばれ、私たちの大きな支えとなっている。

愛甲 雅子（あいこう まさこ）氏

【新潟県キャンプ協会】

新潟県キャンプ協会の事務局長を4期8年務められ、新潟県キャンプ協会の体制整備に加え、自身ではガールスカウトを中心に活動を展開してこられた。野外活動のノウハウを活かして学校、公民館、行政などの行うキャンプの企画・運営を指導したり、公民館、行政等と連携した指導者養成事業に取り組んでこられた。

新潟県はこの間、不幸なことに二度の大きな地震を経験した。しかし、そんな中で全国の各県キャンプ協会の皆様より多くの支援を受けながら、当時の今井会長らと共に災害復興に尽力された。事務局長退任後も、「楽しいキャンプも災害に役立つ」と災害を想定したキャンプに力を入れ、当時以上に活躍しておられる。

伊藤 昭治 (いとう あきはる) 氏

【愛知県キャンプ協会】

昭和58年の愛知県キャンプ協会創立時から理事、常任理事をつとめられ、平成21年からは副会長に就任され、27年間の長きにわたって愛知県キャンプ協会の中心となって活躍しておられる。この間の活躍は愛知県協会の発展の源であり、現在の活動に大きな影響を与えている。受講者・参加者の笑いの絶えないレクリエーション指導、わかりやすいウォークラリー指導には定評があり、愛知県キャンプ協会だけではなく、キャンプインストラクター課程認定校の講師としても活動するなど、多くのキャンプ、レクリエーション指導者の目標とされる指導者である。

古島 光司 (こじま みつじ) 氏

【京 都キャンプ協会】

宇治市野外活動協会の中心メンバーの一人として、地域におけるキャンプ場の管理運営、子どもたちへの自然体験活動の提供や地域の奉仕活動などに尽力してこられ、京都キャンプ協会においても、1987年より今日まで20数年にわたり委員として、指導者養成やキャンプの普及にかかわる諸事業に活躍されている。特に、自然の中にあるものを用いたクラフトをはじめ、伝承的な活動の指導などにも秀でておられる。また、本協会の行う事業には労をいとわず参画され、いつも裏方として目立たない場所から事業を支えられ、スタッフとしてかかわる若い指導者の良い模範となり、多くの会員より慕われている。

NPO 法人 大阪市野外活動指導者連盟

【大阪府キャンプ協会】

1957年に開設された大阪市立信太山キャンプ場の運営指導を担うための組織として、同年に大阪市教育キャンプ指導者連盟（1969年に大阪市野外活動指導者連盟、2007年NPO法人となる）が設立された。以降、信太山キャンプ場の利用者のプログラム指導にあたるとともに、1974年に開設された大阪市立伊賀青少年野外活動センターの事前調査やテストキャンプの実施等に協力するなど他施設の運営指導にも関わってこられた。また、喘息児の健康回復療育キャンプや野外活動指導者の研修指導にあたるなど、50年を超える長きにわたり、キャンプの普及・啓発活動及び指導者養成に果たした役割、貢献は多大なものがある。

財団法人 奈良YMCA

【奈良県キャンプ協会】

奈良YMCAは、青少年等の健全な成長を図るとともに、奉仕の精神を養い、民主的社会の発展と世界平和に寄与することを目的に、1962年に設立され、2012年には50周年を迎える。活動としては、国際青少年団体として、青少年指導者の養成、地域の奉仕活動、国際交流・国際協力、キャンプ・野外活動、健康教育、語学教育、音楽・芸術活動など幅広い活動を展開されている。特にキャンプ活動は青少年活動の主流として、多くの人材を育成されてきた。また、奈良県キャンプ協会発足当初から団体会員として、格別な協力を頂き、県下のキャンプ運動の発展に多大な貢献をされている。

宇都宮 義憲 (うつのみや よしのり) 氏

【愛媛県キャンプ協会】

長年にわたり、野外活動の振興に努められ、愛媛県キャンプ協会発足の際には準備委員として参画、設立に向けて献身的な努力をされた。愛媛県キャンプ協会発足後は、理事として各種事業に積極的な取り組みをされた。特にリーダー養成に関しては並々ならぬ情熱を注ぎ込まれ、愛媛県におけるキャンプ運動の発展に大きな貢献をされた。

野間口 英敏 (のまぐち ひでとし) 氏

【(社)日本キャンプ協会】

1983年より理事として日本キャンプ協会の運営に関わり、現在の協会の運営基盤づくりと事業展開に力を注がれ、2008年には副会長に就任、2010年からは顧問として協会の運営を支えておられる。

ご自身の研究の専門分野である「野外活動・キャンプ指導者の安全」の領域では強い指導性を発揮され、1999年の夏に発生した「玄倉川での水難事故」の際にはいち早く反応し、事故直後に協会内に「安全管理委員会」を組織された。これにより指導者のみでなく、一般愛好者への安全啓発の必要性を強調された意義は大きい。

また、市民の安全意識啓発のため「キャンプ安全のしおり」発行を推進され、「安全」を分かりやすく身近な存在にするために力を尽くされた。

社団法人日本キャンプ協会 平成22・23年度 役員

名誉会長	酒 井 哲 雄	頌栄保育学院 学院長
顧問	斉 藤 保 夫	元 城西大学 教授
顧問	富 岡 幸 生	(財) 日本健康開発財団 専任講師
顧問	野 間 口 英 敏	元 東海大学 教授
顧問	長 谷 川 純 三	(社) 日本オートキャンプ協会 会長
会 長	野 澤 巖	元 埼玉大学 教授
副 会 長	鳥 井 信 吾	サントリーホールディングス(株) 代表取締役副社長
副 会 長	永 吉 宏 英	大阪体育大学 学長
専務理事	星 野 敏 男	明治大学 教授
常務理事	石 田 易 司	桃山学院大学 教授
常務理事	神 崎 清 一	(財) 日本YMCA同盟 全国総主事会会長
理 事	市 橋 郁 夫	岐阜県キャンプ協会 理事 (中部・北陸)
理 事	尾 崎 裕美子	(公財) 東京YWCA 総幹事
理 事	郭 麗 月	かく・にしかわ診療所 医師・心斎橋心理療法センター 代表
理 事	木 村 公 一	(公財) ボーイスカウト日本連盟 総務部長
理 事	桑 田 千 照	兵庫県キャンプ協会 会長 (近畿)
理 事	後 藤 信 郎	(NPO) 東京都キャンプ協会 事務局長 (関東)
理 事	佐 藤 初 雄	(NPO) 国際自然大学校 代表
理 事	守 随 純 子	(社) ガールスカウト日本連盟 副会長
理 事	大 天 嘉 行	岡山県キャンプ協会 会長 (中・四国)
理 事	高 野 孝 子	(NPO) エコプラス 代表
理 事	辻 道 行	長崎県キャンプ協会 副会長 (九州・沖縄)
理 事	平 野 吉 直	信州大学 教授
理 事	松 前 雅 明	福島県キャンプ協会 事務局長 (北海道・東北)
理 事	吉 田 大 郎	(社) 日本キャンプ協会 事務局長
監 事	片 岡 敬 一	(公財) 日本レクリエーション協会 総務部長
監 事	錦 織 一 郎	大阪女学院 副理事長
監 事	林 寿 夫	(株) 野外計画 代表取締役

社団法人日本キャンプ協会 平成22・23年度 専門委員

青木康太郎	特別委員会 (キャンプ白書)	北翔大学 講師
浅野 修	普及 (CAMPING 編集)	(財) 仙台観光コンベンション協会
池畑亜由美	指導者養成 (養成)	女子美術大学 非常勤講師
石川 裕光	普及 (朝霧)	おにし青少年野外活動センター 所長
井戸 綾子	調査安全	びわこ成蹊スポーツ大学 講師
稲葉 秀實	普及 (朝霧)	フリーランス
今井 正裕	指導者養成	(財) 大阪府青少年活動財団 育成事業部長
浦田 憲二	普及 (朝霧)	
遠藤 知里	指導者養成 (養成)	常葉学園短期大学 講師
大浦 秀樹	普及 (CAMPING 編集)	(公財) ボーイスカウト日本連盟 教育部課長
太田 恒義	普及 (朝霧)	常葉学園大学 教授

太田 正義	特別委員会 (朝霧 2011)	(NPO) 子どもの体験活動サポートセンター 理事長
岡村 泰斗	特別委員会 (朝霧 2011)	フリーランス
甲斐 知彦	調査安全	関西学院大学 教授
片岡 麻里	指導者養成(増強)	(社) 日本ガールスカウト日本連盟 事務局次長
金子 和正	調査安全	東京家政学院大学 教授
神谷 稔	指導者養成(増強)	田上税務会計事務所 税理士
粥川 道子	指導者養成(増強)	北翔大学 教授
川村 協平	普及 (朝霧)	山梨大学 教授
久保田康雄	普及 (CAMPING 編集)	(独法) 国立青少年教育振興機構 NYC 運営部長
後藤 信郎	組織整備	東京都キャンプ協会 事務局長
小林 孝之助	特別委員会 (中期総合計画)	(公財) ボーイスカウト日本連盟 事務局次長
小森 伸一	調査安全	東京学芸大学 講師
近藤 剛	組織整備	鳥取短期大学 准教授
佐々木 豊志	普及 (アカデミー)	くりこま高原自然学校 代表
澤田 祥子	普及 (CAMPING 編集)	(公財) 東京YWCA マネジャー
柴田 俊明	特別委員会 (朝霧 2011)	(財) 伊藤忠記念財団 助成事業部長
翠尾 由美	普及 (CAMPING 編集)	(財) 児童育成協会 こどもの城 主任指導員
鈴木 由美	指導者養成(養成)	YMCAスポーツ専門学校(横浜YMCA) 講師
高橋 伸	普及 (アカデミー)	国際基督教大学 講師
高見 彰	特別委員会 (中期総合計画)	大阪国際大学 教授
多田 聡	特別委員会 (キャンプ白書)	明治大学 准教授
橘 直隆	普及 (朝霧)	元筑波大学 教授
月橋 春美	調査安全	宇都宮短期大学 准教授
鶴川 高司	普及 (アカデミー)	(有) 掌〜Tanagokoro 代表取締役
時安 和行	指導者養成(増強)	至学館大学 准教授
富山 浩三	指導者養成(養成)	大阪体育大学 教授
中村 正雄	指導者養成(養成)	大東文化大学 教授
永吉 英記	調査安全	国士舘大学 講師
西島 大祐	指導者養成(増強)	鎌倉女子大学短期大学部 講師
布目 靖則	調査安全	中央大学 准教授
濱谷 弘志	指導者養成(養成)	フリーランス
林 健児郎	普及 (CAMPING 編集)	フリーランス
針ヶ谷 雅子	普及 (アカデミー)	明治大学 非常勤講師
平田 裕一	普及	至学館大学 教授
福田 年之	普及 (CAMPING 編集)	朝日新聞厚生文化事業団 事業課長
藤井 三弥子	組織整備	(株) 名古屋東急ホテル CS推進室マネジャー
逸見 博幸	組織整備	大仙市役所 社会福祉参事
星野 太郎	調査安全	高尾の森わくわくビレッジ 事務局長
水沢 利栄	調査安全	福井大学 准教授
森園 忠勝	組織整備	国立室戸青少年自然の家 所長
師岡 文男	普及 (アカデミー)	上智大学 教授
山下 耕二	調査安全	(財) 大阪市青少年活動協会
吉松 誠一郎	組織整備	佐賀新聞社 東京支社 営業部次長
渡邊 仁	調査安全	筑波大学 助教

事務局スタッフ

事務局長 吉田 大郎 事務局次長 幾田 雅彦 課長 秋山 千草 主幹 高瀬 宏樹
 主査 戸室 勇児 主事 金山 竜也 主事 吉野 宏美

都道府県キャンプ協会一覧(平成22年度)

名 称	設 立 年 月	ホームページ
北海道 キャンプ協会	1992年 6月	
青森県 キャンプ協会	2005年 11月	
岩手県 キャンプ協会	1993年 5月	http://iwate.camping.or.jp
宮城県 キャンプ協会	1998年 10月	
秋田県 キャンプ協会	1994年 4月	
山形県 キャンプ協会	1987年 4月	
福島県 キャンプ協会	1981年 1月	
茨城県 キャンプ協会	1993年 10月	http://ibaraki.camping.or.jp
栃木県 キャンプ協会	1988年 11月	http://tochigi.camping.or.jp
群馬県 キャンプ協会	1967年 9月	http://gunma.camping.or.jp
(NPO) 埼玉県 キャンプ協会	1985年 7月	http://saitama.camping.or.jp
(NPO) 千葉県 キャンプ協会	1984年 6月	http://chiba.camping.or.jp
神奈川県 キャンプ協会	1987年 4月	
(NPO) 東京都 キャンプ協会	1981年 10月	http://www.camp-tokyo.org
新潟県 キャンプ協会	1977年 4月	http://niigata.camping.or.jp
富山県 キャンプ協会	1987年 6月	http://toyama.camping.or.jp
石川県 キャンプ協会	1991年 5月	http://ishikawa.camping.or.jp
山梨県 キャンプ協会	2009年 3月	
長野県 キャンプ協会	1998年 2月	
岐阜県 キャンプ協会	1997年 7月	http://gifu.camping.or.jp
静岡県 キャンプ協会	1998年 4月	http://shizuoka.camping.or.jp
愛知県 キャンプ協会	1983年 5月	http://www5a.biglobe.ne.jp/~aca
三重県 キャンプ協会	1987年 5月	
滋賀県 キャンプ協会	1987年 3月	
京都 キャンプ協会	1980年 6月	http://kyoto.camping.or.jp
大阪府 キャンプ協会	1992年 2月	http://www.osaka-camping.jp
兵庫県 キャンプ協会	1988年 4月	http://hyogo.camping.or.jp
奈良県 キャンプ協会	1998年 6月	
和歌山県 キャンプ協会	1998年 6月	
鳥取県 キャンプ協会	2004年 4月	
島根県 キャンプ協会	1978年 6月	
岡山県 キャンプ協会	1998年 5月	http://okayama.camping.or.jp
広島県 キャンプ協会	1995年 11月	http://www.hiroshima-camping.jp
山口県 キャンプ協会	1969年 4月	http://www.yamacan.net
徳島県 キャンプ協会	1997年 10月	
香川県 キャンプ協会	1976年 11月	http://kagawa.camping.or.jp
愛媛県 キャンプ協会	1994年 5月	http://ehime.camping.or.jp
高知県 キャンプ協会	1991年 8月	
福岡県 キャンプ協会	1989年 4月	
佐賀県 キャンプ協会	1994年 10月	
長崎県 キャンプ協会	1998年 11月	http://nagasaki.camping.or.jp
熊本県 キャンプ協会	1979年 7月	http://kumamoto-camping.jp
大分県 キャンプ協会	2005年 1月	http://oita.camping.or.jp
宮崎県 キャンプ協会	2009年 12月	
鹿児島県 キャンプ協会	1976年 5月	
(NPO) 沖縄県 キャンプ協会	1984年 7月	



NCAJ

National Camping Association of Japan

ふざけると 火と包丁が 牙をむく

【秋田陽子・2010年度キャンプ安全の知恵 最優秀作品】